



(小販)

- | | |
|--------------------|--|
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区大門一丁目 |
| 調査期間 | 二〇〇三年(平15)九月～二〇〇四年一月 |
| 発掘機関 | (財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室 |
| 調査担当者 | 山口信義・田村和裕・下田智隆 |
| 遺跡の種類 | 城郭跡(二ノ丸) |
| 遺跡の年代 | 中世末期～江戸時代 |
| 7
遺跡及び木簡出土遺構の概要 | <p>今回の調査は地方主要道の拡幅工事に伴うものである。調査の結果、小倉城二ノ丸の北西隅部、三ノ丸との間の堀、及び堀に架かつた土橋から桜町口門への通路、及び櫓の礎石、井戸二基が検出された。</p> <p>木簡は、第一面B区の井戸から一点出土した。井戸は掘形の径3m内径80cm深さ4m以上を測り、壁側は礫積みである。安全確保のため、掘り下げは標高マ</p> |

イナス一・三mまで行なつて中止した。

井戸内覆土からは、陶磁器 瓦、獸骨が出土した。陶磁器には幕末～明治時代以降の人工コバルト釉紙型刷りの文様の破片があり、瓦には桟瓦を含む。



200×(16)×3 081

上下両端は丸味を帯びる。左辺は折損している。

(1)

(財)北九州市芸術文化振興財団「小倉城桜町口門跡・大門遺跡」
(七九州市里成文化才開拓報告書三七〇、二〇〇七年)

(山口信義)

基が検出された。

木簡は、第一面B区の井戸から一点出土した。井戸は掘形の径三m内径八〇cm深さ四m以上を測り、壁側は礫積みである。安全確保のため、掘り下げは標高マ